



# 黒畑小だより

学校ホームページ <http://www.kita9.ed.jp/kurogahata-e/>

北九州市立 黒畑 小学校  
平成30年度 学校通信  
＜10月増刊, 第7号＞  
平成30年10月26日  
文責 校長 近藤 勝彦

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

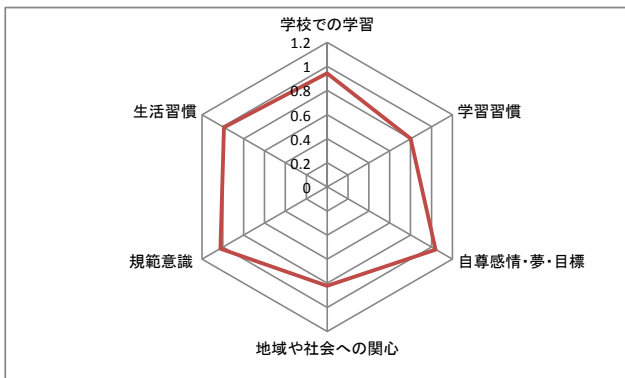
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	○全体的に平均正答率をやや下回っている。相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題と漢字を正しく書く問題に課題が見られた。 ○「読むこと」の問題の正答率が高く、登場人物の心情について、情景描写を基に捉えることができていた。	下回っている
国語B	○全体的に平均正答率を上回っている。特に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の問題の正答率が高かった。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる問題に課題がある。	上回っている
算数A	○全体的に平均正答率をやや下回っている。特に、「図形」「量と測定」に関する問題に課題が見られた。 ○「数と計算」の領域の問題の正答率が高く、基礎的・基本的な知識の定着が見られた。	下回っている
算数B	○全体的に平均正答率をやや下回っている。特に、「図形」「量と測定」に関する問題に課題が見られた。 ○棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができていた。	下回っている
理科	○全体的に平均正答率をやや下回っている。特に、「生命」「エネルギー」に関する問題に課題が見られた。 ○より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察することができていた。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○自尊感情・夢・目標が全国を上回っている。特に、自尊感情は高く、自信を付けている児童が増えたので、学力・体力向上に結び付けていくことが必要である。
○家庭学習(宿題以外の自主学習)を1時間以上行っている児童の割合が全国平均より下回っている。「家庭チャレンジハンドブック」等を活用して、家庭学習の定着を図る必要がある。
○地域の行事に参加する児童が増えた。
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が大幅に増加した。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 家庭学習で、漢字のプリントや漢字ドリルを活用し定着を図る。
- 授業開始5分を利用して、フラッシュカード等を用いて反復練習を行い、新出漢字や既習の漢字の定着を図る。
- 黒畑タイムを活用し、「図形」や「量と測定」に関する知識・技能の定着を図る。
- 毎時間、各教科で思考力・判断力・表現力を育成する授業を行う。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「家庭チャレンジハンドブック」や「家庭学習のすすめ」で紹介された学習の意義や学習方法を、学級懇談や個人懇談で紹介し、自主学習の習慣を定着させる。
- 携帯・スマホの使用時間やフィルターの取付など各家庭でルールをきちんと確認し、管理を徹底する。
- 「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に、基本的な生活習慣の見直しを図る。